男爵記念館農機類標本台帳

一般名称: 蒸気自動車ロコモービル	現地の通称: Locomobile

資料種別: ◉ 製品−実物 ○ 製品−レプリカ ○ 製品−模型 ○ 製品図面 ○ 写真等 ○ 図書掲載 ○ その他

資料種類: ☐ 人力用具 ☐ 手押式 ☐ 耕耘用 ☐ 調製用 / ☐ 畜力用具 ☐ 乗用式 ☐ 施肥播種 ☐ 施設類 / ☐ 原動機具 ☐ 牽引式 ☐ 管理用 ☐ 機素 / ☐ トラクタ具 ☐ 定置式 ☐ 収穫用 ☒ その他

管理プレートNo.

台帳No. D003

相手先番号等

統一分類記号

製作者・会社: ロコモービル社　コネチカット州ブリッジポート　製造市・国名　アメリカ

製造年_購入年,標本収集年: 1901年購入、函館移住に伴い移動、恒産社に保管・標本化、NHK「いも男爵奮戦記」で復元

使用目的・使用方法等

ロコモビルは、超小型のボイラを灯油バーナで熱し、発生した蒸気でピストンを作動する方式である。製造元はコネチカット州のロコモビル会社であり、1899(明治32 年)から3 年間に4,000 台を生産した。同機は、スタンレー スチーマーの設計であり、会社は1903年に蒸気自動車の生産を終了して1922年Durant Motorsに吸収された。
日本で最初に導入されて現存する蒸気自動車は、1901年に横浜の貿易商が米国・ロコモービル社製品を扱い始め、この1台が同年9月に45歳の川田龍吉が購入した、展示標本のロコモビル・スチーマー2 型スタンダードであり、価格は650ドル(3500円)であった。

利用経過収集記録意義等

始動時に10 分を要し、急坂を上るには停車して蒸気を上げるのに数分を要する。龍吉は、牛込区新小川町一飯田橋一竹橋一大手町一新橋汐留まで15 分で走行したと伝えられる。また龍吉は函館ドック会社から、七飯の清香園まで函館新道をこのロコモビルで走った。このロコモビルは、災火を逃れて当別農場の倉庫に保有され、1978(昭和53年)に渡島当別駅裏の男爵資料館に陳列しておおやけになった。木村正夫氏の長男の労苦が報いNHK テレビ「いも男爵奮戦記」に出演して後に、1979 年に完全に復元された。平均時速28km、エンジン出力3〜4 馬力、灯油1L で6.5km 走行できる。タイヤは人手できなかったため、自動2輪車用のモトクロス用タイヤに替えられた。

仕様書_解説等

車体の仕様
車長2.2m、車幅1.23m、重量435kg（タンク満水時）。
前輪リムに距離計、後車軸にはデフアレンシャルギヤを装備。 空気タイヤは22×3 インチ。

右に全体図

外観特色関連図等

資料の所在: 公開展示室

資料追記事項:

資料管理経過

エンジンの仕様：a. ボイラは直径35cm、高き35cm、外径9mm の銅管298 本を有し、伝熱面積48,867cm2、常用圧力14kg/cm2。 B. 水タンク容量は98L、1 時間走行分（48km）に相当。 C. 燃料は灯油で気化させて燃焼させる。タンク容量は19L。d. 蒸気シリンダは、リンク仕掛け2 シリンダ、直径63.5mm、ストローク89mm、750rpm のクランク軸には玉軸受けを使用。

作業メモ追記文

蒸気自動車は、おそらく最も有名で最も多く販売した会社がスタンレースチーマーである。1896〜1924年に生産し、1899〜1905年に全てのガソリン車より多く売った、2番目はコロンビア電気自動車。スタンレーはコンパクトな煙管式ボイラーと単純な複動式2気筒エンジンを搭載した。蒸気エンジンは速度に応じて理想的なトルクを発揮するのでクラッチを使用せず後輪を減速機を介せず直接駆動する。1914年までスタンレー蒸気自動車は排気蒸気を大気中に放出していたが、頻繁に水タンクに補給が必要だったので1914年以降は復水器を備えて水の消費を抑えた。

農業機械学会北海道支部「農機DB作成委員会編